

# 新たな評価導入に係る事故分析

# 死亡と重傷の重み付けの見直し調査

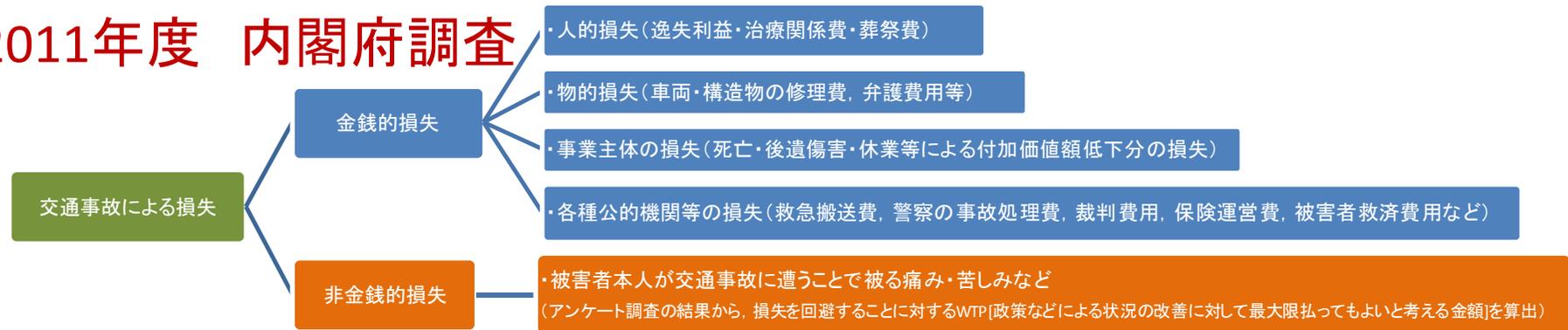
## 現行アセスメントの死亡・重傷比率

単位: 万円

	死亡	重傷	頸部 後遺障害	重傷を”1”とした場合 の死亡の比率	備考
衝突安全 <sup>#</sup>	3102	807	408	3.84	死亡: 平均人身損失額(91' 自賠責統計 & 医療統計) 重傷・軽傷: 2007年度の自動車保険データ
予防安全	3000	800	-	3.75	内閣府: 交通事故の被害・損失の経済的分析に関する 報告書(2007年3月)の人的損失額

# 傷害部位別の重み付けについては、総合評価(2000年)から変更なし。

## 2011年度 内閣府調査



単位: 万円

	死亡	後遺傷害*	傷害	重傷を”1”とした場合 の死亡の比率	備考
人的損失	2832	786	56	3.60	内閣府: 交通事故の被害・損失の経済的分析に 関する報告書(2012年3月) [被害者1名あたりの交通事故による損失額 (2009年)]
金銭的損失	3152	967	162	3.26	
非金銭的損失	21300	859	24	24.80	
総計	24452	1825	186	13.40	

\* 国交省におけるこれまでの検討では、後遺傷害≒重傷と置き換えている。

# 乗車位置別の分析による効果予測結果

試験形態	衝突部位	傷害部位	分析対象				算出根拠(仮定)	傷害程度	現NCAP低減分(A)	改定後の低減分(B)	事故低減数(A+B)	内閣府比率*1(割合:%)	新旧割合	現行割合
			ベルト	運転席	助手席	後席								
フルラップ 前面衝突試験	前面+ (左右前)*0.5	全	着用	○	○	○	・H22調査報告書を参照し、FRB:ODB=50%:50%とした。 ・JNCAP改定後については、高齢者対策(胸部閾値を厳しく)により、高齢者の死亡率(重傷率)が成人並みに低下すると仮定。	死亡	38	73	111	28(21%)	59%	14.5%
オフセット 前面衝突試験								重傷	390	556	946			
側面衝突試験 (MDB)	右側+左側 (左右前)*0.5	全	全	Near	Near	-		死亡	24	44	69	19(15%)		12%
								重傷	349	358	708			
後面衝突 頸部保護試験	後+ 左右後	頸部	全	○	○	-	死亡	0	1	1	2(2%)	48%	7%	
							重傷 +軽傷 (後遺障害)	10	132	142				
歩行者頭部 保護試験	前面+ 左右前	頭顔	○	-	-	-	死亡	59	205	264	48(37%)	48%		
歩行者脚部 保護試験							脚部	○	-	死亡			3	2
PSBR	前面+ (左右前)*0.5	全	非着用	-	○	○	・シートベルト非着用者がSBR装備することで50%の人がシートベルトを着用すると仮定。	死亡	40		40	5(4%)	4%	
								重傷	271		271			

\*1: 内閣府比率(死亡:2億4452万円, 重傷1825万円)を用いて, 1点=16億円とした場合の低減効果。